



大阪市立大学  
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第7号

# 同窓会だより

1988年11月末日  
大阪市立大学工学部同窓会  
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目  
3-138 TEL 06(605)2789  
発行人 足立幸一

## ごあいさつ

同窓会会長 足立 幸一



母校の先生方、会員の皆様方には、御清祥にお過ごしのことと存じ上げお慶び申し上げます。

学生諸君も、元気に勉強され、就職活動も順調に進み何よりでございます。私ども一同、実社会で、

一緒に仕事などができる日を、楽しみにしています。本同窓会の関東支部や学科の同窓会も広く輪を広げられていると折りにふれてお聞きし心強く思っています。

工学部の創立四十周年記念事業による学術情報交流センターが歩み始め、工学情報の交流が少しずつ広げられているようで喜んでおります。

話は変わりますが、去年度から今年度にかけて、第四次全国総合開発計画の策定、近畿圏整備基本計画の策定、昴プランの推進体制の促進などの大計画が進展しています。関西学術文化研究都市の建設、関西国際空港の建設は、確かに進んでいます。近畿の各自治体においては、文科系の大学の設置が一巡し、理科系の大学・研究施設の整備を進めようとしていた昨今です。

大阪市においては、花と緑の万博、大阪テクノポート計画とともに、大学の医学部附属病院の建替等がつつぎます。

近畿圏、大阪圏における学術文化の厚みと奥行きを高める整備がなされつつあるといえましょう。

最近、大阪市大工学部の将来へ向けて、新しい教育研究の分野の設置などによる発展があるとお聞きしています。これまでの実績の上に、さらに高度な高等教育研究機関への道を歩まれるようで、道のりは長くとも何よりもその実現を期待しています。

一方、ほかの学部は、伝統の上にさらに発展される方向にあります。

以前から、話し合いがつづいています大阪市立大学の各同窓会のネットワークづくりが、実際に課題になりつつあります。具体化の節には、皆様とともに、進めたいと存じますので、どうかよろしくご協力下さいますようお願いいたします。皆様には、御健康にご留意くださいます、ご活躍をさせていただきますようお祈り申し上げます。(建築・昭和29年卒・大阪市都市整備局営繕部長)

## 同窓会の皆様へ

名誉会長 川村 純夫



本年度は原子力基礎研究所より10名の教員を迎えて、かねて計画中の情報工学科(仮称)および生物応用化学科(仮称)の2学科を昭和65年4月より発足するべく努力致しております。学部内に新学科開設準備委員会(委員長：園田教授)を設け新学科の構成、カリキュラム等々の検討、新学科のための新学舎の予算要求、等々に追われている昨今であります。しかし、これが実現すればわが工学部にとってはもとより、大阪地域の発展のためにも大きなインパクトとなることを信じております。

また、最近卒業生がよく大学の方へ見えられ社会の実状などのお話を聞く機会が増えるにつれ、教育研究面の充実が大学の使命であると痛感しております次第であります。

いろいろな意味で、現在わが工学部は過渡の状態にあります。早急に基本的設備等を整備して21世紀へ向けての大阪地域の工学的基礎を築く拠点としたいと考えております。同窓会の皆様方も何かと御多忙の折ではありまじょうが、御指導の程お願い申し上げます。

(工学部長・建築学科教授)



工学部創立40周年記念事業により設置された学術情報交流センターの外観東面

## 機械工学科だより

守田 栄之



同窓会の皆様にはお元気で活躍のこととお喜び申し上げます。昨年は同窓会名簿発行の年でしたので、今回はここ2年間の機械教室の動向をお知らせします。この間に5人の先生方が定年退職されるなど人事面での激動の時期でした。以下に講座別に近況をお知らせします。

**材料力学講座** 昭和62年3月に藤井太一教授が定年退職、名誉教授になられました。福田武人講師が4月に助教授に、同年10月には教授に昇任、62年3月には板見和夫技術職員が下水道局へ転出され、63年3月には水川清助教授が定年退職されたので、現在逢坂勝彦助手と二人で複合材料関係の研究に励んでおられます。

**熱工学及び化学機械講座** 62年4月三宅和行技術職員が下水道局から転入、63年3月には兵働務教授が定年退職されました。教授席は上田祐男教授が兼任されています。63年4月に野邑奉弘講師が助教授に昇任、西村伸也助手と本年夏にヨーロッパへ学会発表に行く等、乾燥機講の研究等に頑張っておられます。

**流体工学講座** 63年3月に森島直正教授が定年退職されました。教授席は玉村謙太郎教授が兼任されています。

63年4月に東恒雄講師が助教授に昇任、布部誠助手と放射状液膜流れの研究等を鋭意進めておられます。東助教授は本年夏にヨーロッパで学会発表をされました。

**機械設計工学及び繊維機械講座** 62年10月に吉岡真弥助手が新採用、上田祐男教授、南齋征夫助教授、深井充祐講師の4名でレオロジー関係等の研究をされ、南齋助教授は本年10月にヨーロッパで学会発表をされました。

**機械工作及び機械材料講座** 62年4月に若林三記助手が講師に昇任され、玉村謙太郎教授、上神謙次郎講師、森元時夫助手、橋本猛技術職員の5名で新技術に対応できる加工油剤の研究等に励まれています。本年夏には玉村教授、上神講師はシンガポールで学会発表をされました。内燃機関及び測定工学講座 62年3月に東野一郎教授が定年退職、名誉教授になられました。同年4月守田が教授に昇任、63年4月に瀧山武助手が新採用となり、渡辺紀彦講師、秋山貞夫助手の4名で内燃機関関係の制御の研究等に努力しています。

なお、工学部付置の機械工作室は中山守助教授、工藤勝久技術職員が研削油剤の研究等に勤しんでおられます。

最後になりましたが、皆様の御健康と御活躍をお祈り致しますと共に、機械教室への一層の御支援をお願い致します。  
(機械工学科主任教授)

## 電気工学科の近況

藤井 知生



同窓会の皆様御無沙汰致しております。と言うよりむしろ、多くの方々には、始めましてと申し上げたの方が良いのかも知れません。前会報でご紹介いただきましてから満2年になりますが、早々学科主任を仰せ付かり、重責を果すべく鋭意微力を尽しております。

さて、停滞気味でありました教員人事も活性化の兆が見え出しまして、この2年間に以下のように4名の新人採用と4件の昇格人事の発令がありました。

まず、フレッシュマンの略歴等をご紹介します。

高橋秀也、電子回路研助手。1982年大阪市大電気工学科卒。1987年同博士課程単位取得。光情報処理、神経回路網に関する研究。スキー、テニス、映画鑑賞。酒量末ダ上限を知らず。カラオケマイクを手放し難し。

中島重義、電気通信研助手。1982年京都大電気工学科卒。1987年同博士課程修了。既成の逐次型数値計算プログラムをデータフロー型並列計算機上での実行手法。音楽、読書(S.F)、スキー。斗酒ナオジセズ。

黒田輝、電気回路研助手。1984年神戸大計測工学科卒。1986年同修士課程修了。核磁気共鳴信号による非侵襲温度計測、生体内部における拳動解析。テニス、スキー、音楽鑑賞。マジメ人間、テニスの腕は中の上と見エル。

北村泰彦、情報研助手。1983年大阪大基礎工情報工学科卒。1988年同博士課程修了。分散型問題解決法とエキスパートシステム、自然言語理解、画像理解などへの応用。読書、ドラム。下戸、既婚念ノタメ。

次に、昇格された先生方は、鈴木裕、電気回路研助教授。岡本次郎、電気通信研助教授。藤原直質人、情報研助教授。松下賢二、電子回路研講師。なお松下先生は、二次六光演算システムとその応用に関する研究で工学博士の学位を取得されました。

以上のように電気工学科の次世代を背負って立つべき俊才を関西の各主要大学から迎えることができました。また、中堅の先生方もそれぞれ所を得てご活躍中です。母校は同窓生とともに栄えると申します。同窓の皆様方の益々の御活躍をお祈りすると同時に、一層のご支援を賜りますようお願い致します。

(電気工学科主任教授)

## 応用化学科の近況

大津 隆行



キャンパスの木々もすっかり色づきました。昨年、教養2、3号館の改装に続いて専門1号館の改装もこの夏に終り、時計台の時計も新しくなりました。時限の代りにはさわやかなメロディを流してくれています。このように杉本キ

ャンパスは、木々の成長とともに美しくなりましたが、工学部の建物は移転24年のしみやいたみが目立つのは残念です。しかし、皆様御協力を頂いて完成した工学部学術情報交流センターは立派で、利用しやすくなるとともに国際化、情報化時代のセンターとしての機能を果たしています。一度お立寄り下さい。

さて、応化の近況をお知らせしましょう。まず先輩教授から申しますと、井本 稔先生は本年7月満80才の傘寿を迎えられ、この夏第5回日中ラジカル重合シンポジウムを開催したときにささやかなお祝いを致しました。先生はこのシンポに3日連続して出席され、益々お元気で執筆活動を続けておられます。また、熊田 誠先生、井本立也先生、大饗 茂先生(岡山理科大学)もお元気で活躍されておられます。

つぎに、応化の現スタッフや研究活動のことですが、前2回のニュースや入試用の工学部案内に記されていますので省略させていただきます。変わった点だけを記しますと、今年4月から無機工業化学講座の助手に澤井圭二郎氏(昭和63年岡山大学博修了、学術博士)が就任され、新しい戦力となられました。荻野健治助手はフランスの国立科学研究センター天然物化学研究所での1年間の留学を終えて帰国され、大嶋 寛助手もアメリカのニューダートマス大学留学から今年末に帰国される予定です。また、皆様もよく御存知の原子力基礎研究所が来年3月で改組でなくなることになり、これ迄も大学院兼担であった菌頭健吉教授、椎名 教助教授と眞野倅一講師、笠井佐夫助手の4先生が10月1日付で応化兼務となられ、来年4月から正式教員として応化の研究・教育に参画して頂く予定です。これを機に新学科設立に向けて準備が進められています。

今年度の主任を務めています。就職戦々の異常な過熱には驚きました。21世紀に向けての科学・技術の発展のため、皆様の益々の御健勝、御活躍を祈ります。

(応用化学科主任教授)

## 主任からの建築学科の近況だより

成瀬 哲生



今年の夏は雨天続きで、秋に入りやっと快晴日も多くなってきました。皆様お元気でせうか。

二度目の学科主任です。日置・三輪両先生のアドバイスで、やっと主任の務めを続けている昨今です。労の割りには稔りの少ない、今年の天気のような感じです。

この4月、川村教授が工学部長に、建築計画及び建築史講座の福田講師が助教授に昇格しました。福田助教授は、10月から1年間、イタリアのバトバ大学に西欧近世劇場建築史の研究のため出張しています。非常勤講師に同窓生の大阪市の奥尾光佑氏が、建築行政・法規を担当することになりました。他は特に変わりありません。

学生に関して、本年度の4年生の在籍者数は、52名です。入学者がその年度では35名ですから、留年者が多いこととなります。新入生は39名です。(文部省通達による臨時増で定員は38名)うち女子学生が6名です。出身地が文字通り北海道から九州まで拡がり、大学入試の受験機会の複数化の影響と云われています。

就職に関しては、いつもながら、先輩方各方面のご支援により、来春の卒業・修了見込の学生の内定がほとんど決まりました。建築関係の業界は、若手の人材不足もあって、ゼネコンを初めとして、早くから多くの求人がありました。直接学科や主任に申込みのあった企業でも、350社を越え、学生数の単純割りでは約10倍強に相当します。学生の志望はほぼ全員が大企業志向であり、企業での目的意識が薄く、また求人側のニーズに必ずしも一致していません。また、ここ近年、就職内定者でありながら、単位未修得で翌3月に卒業できない学生が増加の傾向にあり、頭の痛いことです。就職状況が良いのが、かえって気のゆるみを誘発したのかも知れません。

とにかくも、大学の伝統と教室の諸先輩の配慮によることを感謝するとともに、直接求人のため訪ねられた卒業生諸先輩の要望に応じられなかったことを申し訳なく思っている次第です。

この原稿を記しています今は、学科内では建築学演習のレポートのまとめや卒業設計の指導が始まる頃ですが、本誌が皆様にとどく時は、本年度は寒さが厳しいと云われている年末だと思えます。一層の御健勝を祈り上げます。

(建築学科主任教授)

## 土木工学科の近況

高田 直俊



この2年間にかなりの人事移動がありました。まず、62年3月に三笠正人教授が定年退職され、摂南大学教授としてご活躍です。三笠教授退職後の土質工学講座では、4月に高田直俊が教授に昇任し、10月に望月秋利講師が助教授に、

63年4月に東田淳助手が講師に昇任されました。土木材料・環境工学講座では62年4月に真島光保助手が講師に昇任されました。河海工学講座では久保直講師が62年7月に五洋建設(株)に転出され、角野昇八助手が63年4月に講師に昇任されました。久保講師は昭和33年来の勤務でしたが、大阪支店の営業部長としてご活躍です。63年3月には橋梁工学講座の阪野雅則助手が松尾橋梁(株)に転出され、入れ替わりに4名の新人、上林厚志助手(構造工学)、大島昭彦助手(土質工学)、松重孝昌助手(河海工学)、明橋克良助手(橋梁工学)が採用され、これにより土木教室のスタッフの平均年齢は一気に若返り、また三笠教授の退職によって土木教室の初代の先生方は全て去られ、2代目の時代に入りました。62年2月16日に、昭和25年から32年まで土木工学科に勤務され、また創設期の日本の土質工学の発展に貢献された森田紀元先生が逝去されました。ご冥福を祈る次第です。

教員の学内、学外、海外における活動も非常に活発です。望月助教授は交換教授として今年3月から2カ月間ブラジル・サンパウロ大学に赴任されたほか、常に誰かが外国にいます。実験室も充実してきましたが、どこも部屋の狭さが目立ってきました。大和川の河岸の河海工学実験場は河川改修のため廃止され、専門キャンパス運動場の東の一角に昨年移転しました。このとき珍しい弥生時代の墓が出土し、建設工事と遺跡というテーマに複雑な思いをしました。

学生の就職動向は民間企業の業績向上に呼应し、かつての公務員志向から建設会社を主とした民間志向に変わってきています。さらに、技術系学生の論理的思考力を求む、という求人によって、文科系学生の就職先であった金融、不動産など非技術系への就職が目立つのも最近の特徴です。また女子学生の入学も定着してきましたが、就職に対しては受け入れ側が女性技術者に慣れていない点に多少の問題がありそうです。

(土木工学科主任教授)

## 応用物理学科の近況だより

大倉 照



応用物理教室の歴史は理工学部創設時にさかのぼり、最初の卒業生を出した昭和28年からすれば、今年には35年目ということになります。当教室では17年間、採用人事が停滞していたのですが、本年やっと中山正昭氏が助手として採用

され、西村 仁教授の補助の任にあたっています。大学の研究能力の活性化の一つの要件として、教官の人事交流があげられています。多年にわたって人事交流のなかったことは、一方では老化現象が進行しているとの指標でもあります。一昔前は、卒業研究の発表が、即、日本物理学会などでの発表となり、さらに国際会議報告、英文論文としての投稿という風に発展したことは珍らしくなかったのですが、最近はこの様なことは少くなり、修士論文ですら学会に登場する機会がなくなるといった傾向にあります。学会発表は自由なのに、この低調ぶりは総体として研究能力の低下をうかがわせるものです。

然し、反面、半導体工業の隆盛、先端技術の基盤材料の開発という社会の要請をうけて、応用物理学科の人気は上昇の一途であり、新卒業生の就職には全く難がなくなりました。新入生も入試成績の上位で殆んど第1次志望で入学してきていて、かつて半数に近い2次志望の学生がいたことは昔の語り草となっています。

次に卒業生の活躍の一端をお知らせします。英国には Arthur Rank 卿により1972年に設立された「ランク賞財団」があり、栄養学及び光エレクトロニクス関連科学の振興の一環として76年以来2年毎に受賞行事を行っています。本年88年には「液晶のディスプレイ」に関する研究受賞の1人として松下電器中央研究所の永田清一君(62年卒)が選ばれました。日本人としては初めての事です。この様な国際的栄誉をうけられたことは教室の誇りでもあります。又、宇都宮恒夫君(58年卒)はソニー美濃加茂(株)の社長に就任されました。今後もいいニュースをどしどしお聞かせ下さい。

応用物理学科創設時の3教授の1人の川村 肇教授には本年春の叙勲で勲三等旭日中授賞を受賞されました。おめでたいことであります。先生は松下電子工業(株)の顧問のかたわら画筆にも御堪能で、豊中市長賞、吹田市市長賞などの栄にも輝かれました。

最後に、兼松 太名誉教授が本年5月16日鬼籍に入られました。皆様とともにつつしんで御冥福をお祈りしたいと存じます。

(応用物理学科主任教授)

## 思 い 出

兵働 務



今年3月にお蔭で無事定年を迎えました。大阪市立大学理工学部助手に採用して戴いたのが昭和28年ですから35年になります。「光蔭矢の如し」を実感として感じます。私が恩師吉田哲夫先生に与えられました研究テーマの主なもの

は「過熱蒸気・空気およびその混合気体中での水の蒸発と乾燥でした。」  
「乾いた空気中でより湿った空気中の方が物がよく乾く」と言えばそんな馬鹿なことはないと思われるでしょう。しかし事実ある条件、即ちある温度以上になると湿った空気中の方がよく乾きます。そしてその極限と考えられる過熱蒸気中ではさらによく乾き、そのうえ乾いた空気中では得られない様々の利点を持っています。たとえば乾燥材より排出される比較的湿度と温度の高い空気は、全部再循環して使用できます。このことは熱エネルギーの大きな節約になります。さらに乾燥速度が速い、乾燥物が酸化しにくい、ポーラス（多孔質）の状態で乾燥する、表面が早く硬くならない、殺菌作用があるなどです。

空気と過熱蒸気、そしてその混合気体中での水の蒸発速度の関係と再循環可能であるという点について1970年に米国の Industrial Engineering Chemistry の Process Design & Development に掲載されました。米国の Gulf Machinery 社は2年後にこの再循環可能な乾燥機（閉回路乾燥機と呼んでいます）と濃縮装置を結びつけて実用化に成功しました。当時数億とも言われたこの大きなプラントは、従来のものに比べて燃料消費量が40%ですむとされています。日本の乾燥機メーカーの大川原製作所でもその後作られ、日本では主に密柑の産地和歌山、松山、佐賀、熊本などでジュースの絞り粕の処理機として有効に利用されているようです。大学での研究が大きなプラントとして実用化されるきっかけとなったことは非常に嬉しいことであり、吉田先生と共に良い思い出となっています。しかし、研究には学会の諸先生や実験に協力して戴いた卒業生諸氏、さらに困難な実験装置作成に援助して下さった方々など、多くの人々が蔭で力となって下さった事を思い感謝の念に溢れています。

私共は梅雨の頃に洗濯物が乾きにくい、かびが生える。蒸し暑く不愉快だということを経験によって知っています。この原因は湿った空気によるもので、この空気はあまり一般に好まれていません。しかし前記のように人から毛嫌いされる湿った空気も生きる道があると思うと、私は湿った空気やその極限である過熱蒸気にますます興味を覚え、愛着さえ感じるようになりました。このよう

に湿った空気も見方によっては良くも悪くもなり、好きにも嫌いにもなります。このことに事寄せて人間関係の話になりますが、人間というものは（こういう言い方は私はあまり好みませんが）互いに身近な間柄になりますと欠点は容易に見つかりますが、良い点を見出すには幾分か努力を要するのではないのでしょうか。そして欠点と思われていたものが実は長所である場合もあります。私共縁あって出会った者が難しいことかもしれませんが、互いに良き点を見出す努力をして、少しでも理解しあって生きていきたいものです。教師や上司は生徒や部下の良き面を引き出す努力を怠ってはいけないという事がよく言われていますが、弱点を持つ者の切りすてられている、またそうせざるを得ない現在のせちがらい忙しい世に私は疑問を感じています。

ところで、その良い点を見出す努力を阻むもの一つに我執や執着があります。禅においては、この執着を離れることは大事な目標の一つとしているようです。しかし人間関係において、マイナスとなる我執や執着も、研究や仕事に対してはある程度必要でないかと思われま。それゆえ、人間関係と研究や仕事を調和させるためには、より高いものに向かって絶えざる日毎の精進を続けたいと願っている昨今です。

工学部卒業生諸氏の益々の御活躍と御健康を祈って筆をおきます。  
(元機械工学科教授)

## 35年を経て停年退職

森島 直正



大阪市立大学に奉職したのは昭和28年2月であるから、学部機械科の第1回の卒業生を送りだした者としては、昨年藤井先生に次いで最後になってしまった。京都大学の燃料化学科におられた吉田哲夫先生から「大阪市大の機械科へ一緒に行かないか」とお誘いを受け「どうかよろしく」と、市大生活が始まった。アームハンドルのオート3輪を借り、吉田先生の研究資料一式を運んでもらって移ってきてから早や35年が過ぎた。

部屋は扇町の北校舎、北野病院に面した2階で、付近には高いビルもなく、夜遅くなると国鉄天満駅のアナウンスが風に乗って「テンマー、テンマー、次はオオサカー」とすき腹に響いたものである。集塵装置を研究テーマにしてから、大阪府の公害対策委員をしていられた吉田先生とともに、ばいじん発生施設の測定にでかけたが、零細企業では集塵装置には費用を出しながら、付近の住民からは「先生方が測定にこられた日だけ煙が少ない」と苦情をいわれ、公害防止は机上の計算どうりにはいかないものである事を知った。

運動場の東端にアナログ計算機が設置され、粉塵粒子の運動の計算に学生と一緒に苦労したが、そこが唯一のクーラーのある部屋であった。結局、乗算機が足りず、東京武蔵の日立電子で借りることになり、真砂町の大阪市東京寮から中央線で数日間通い計算することができた。研究費が乏しくゴム管の切れ端やネジ1本も捨てず、足りないものはできるだけ借りることにしており、隣室の大東教授の研究室には大変お世話になった。

集塵の対象である粉体は、化学、薬学、土木からセラミックスや放射能灰まで広い分野に関連する研究対象であり、各方面の知識が要求され、それだけによりどころとする専門が境界領域となり、主流から疎外されるために、後を継ぐ研究者を得られなかったことは心残りである。

この(昭和63年)4月から、粉体工学会の学会誌の編集に協力を頼まれ、非常勤にて京都、百万辺に行っている。学会へ送られてくる論文を見ていると、いろいろな文章に出会い、つい一言いつてみたくなる。老婆心ながら参考になれば幸いである。

理科系の技術論文は正確であることが最も大切である。事実を正確に記述し、自己の意志を間違いなく読者に伝えることが第一で、あいまいな表現は禁物である。大胆とも思えるほどに断定的な表現が、かえって読みやすい文章になることが多い。

句読点の使い方の下手な文章が目につく。句点「。」、読点「、」を極力省略した電報文での悲喜劇は、落語の種であり、「いろは」48文字は、句読点の付け方によって、違った歌が作られていることは周知の事実である。新聞記事に関する調査によれば、固有名詞や数字を多く使う報道記事の、1センテンスの長さは約95字で、政経関係の記事では約82字であった。ある人によれば、約80字程度が適当であるという。この8行程の文では、意識して読点を多く使ったが、それほど読みにくくはないであろう。

最近ワープロで原稿を作る人が多くなったが、漢字、仮名使いを無造作にワープロに頼っている文章をよく見かける。ワープロは出来るだけ広いニーズに答えるべく、常用漢字表にない漢字や読みにも変換してくれる。専門の技術用語以外は常用漢字の使用が決められているが、例えば、「或と云う字は可成り以前から極く希にしか出て来無く成った」という文章の下線の字は使われないが、ワープロではちゃんと変換してくれる。漢字が多くなり過ぎて読み難く、少な過ぎて間ぬけた文になってしまう。先の調査で、文章中の漢字の割合はおおよそ35%ぐらいが適当であるとの指摘であった。

技術者はとくに文章を書くことが不得手な人が多いが、社内報にしても学会誌にしても、わかりやすく読みやすい文章を作って、読者にアピールし、理解してもらうこ

とが肝要である。終わりにあたって皆様のご健闘を心から祈ります。

(元機械工学科教授)

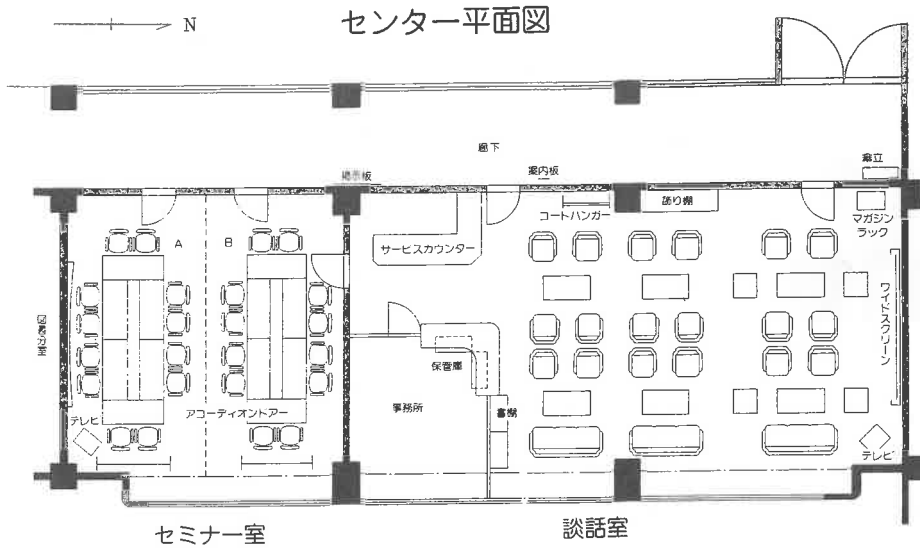
## 工学部学術情報交流センター 開所!!

大阪市立大学工学部の創立40周年記念事業として建設が進められておりました工学部学術情報交流センターが昭和62年3月25日めでたく開所されました。卒業生各位の積極的な利用が期待されております。

- 設立主旨…工学部の現・旧教職、卒業生、産業界の研究者等が相寄り、学術的、技術的諸問題について談話、討議しお互いの技術交流を図り、各専門分野はもとより境界領域あるいは新技術の発展と育成に資すること。
- 施設の概要…①設置場所：工学部A棟2階；②総面積214.5㎡；③構成：セミナー室（会議室スタイルまたは教室スタイル配置、収容人員24名他に補助イス10）談話室（ソファ6セット、収容人員32名）、事務室；④冷暖房：全室ヒートポンプ式；⑤設備・備品費：（ファクシミリ、パソコン、ワープロ、テレビ、ビデオ、OHP、スライドプロジェクター、ワイドスクリーン）。
- 運営について  
当センターは、工学部学術情報交流センター運営委員会（昭和63年度は上田祐男（機械）、堤四郎（電気）大津隆行（応化）、成瀬哲生（建築）、西村昂（土木）横田万里夫（応物）の6教授）によって運営され、日常的なセンター業務は工学部同窓会の事務局員が協力。
- 利用について（運営委員会）

- (1)センターの利用目的は、センター設立主旨に合うものとする。
- (2)センターの施設を利用することのできる者は、工学部の教職員（旧教職員を含む）、卒業生、その他運営委員会の認めた者とする。なお、学生（院生を含む）の利用については教員に同伴する場合に限る。
- (3)センターの利用時間は、当分の間、平日の午前10時から午後5時の間とする。
- (4)セミナー室の利用は、センター事務室に申し込むものとする。
- (5)利用に関するその他の事項については、運営委員会で検討する。

セミナー室の利用申込みは、センター事務室  
(電話 06・605・2789)へ事前にご連絡下さい。



セミナー室



談話室



廊 下

**支部設置規則**（設定：昭和62年2月21日）

- 第1条** 支部を設置するときは、(イ)支部の名称、(ロ)支部長候補者名、(ハ)支部規則、(ニ)支部事務所々在地および(ホ)支部会員名簿を添えて会長に申し出、理事会の承認を得る。
- 第2条** 支部の費用は支部会員で支弁する。
- 第3条** 第1条の各項に変更があったときは直ちに会長に報告する。
- 第4条** 支部を解散するときは、支部長がその理由を会長に報告し、理事会の承認を得る。
- 第5条** 理事会は、本会の体面を汚し、または秩序を乱す行為のあった支部に対し、理事会の議決を経てその承認を取り消すことができる。

「成り行きまかせ」

田中 康弘



機・電・建・土の4科のうち、  
どうして機械科を選んだかは記憶  
にないが、もう50年前といっても、  
それ程はオーバーでない時間が経  
過してしまった。

戦争中であつた故もあつて、何  
れ軍隊に行くであろうと思いつつ、  
その途（機械）一筋を歩むのが人生だと覚悟をしたつもり  
であつたが、繰り上げ卒業の1月前に敗戦となり、その  
若干以前に割り当てられていたような国鉄（当時は運  
輸省）に入り、当然鉄道工場に配属になると思ったが、  
運転というオペレーター部門に配置された。

旧制北野中学の3年生頃から体調を崩し、工專入学の  
頃は、「肺呼吸音変調」とカルテに記入されていたので、  
勉強も程々にして何事にも逆らわないで、全て成り  
行きに従うことを主義とした。

国鉄では、機関車・電車の運転、各種車両の保守、駅  
・操車場の現場を歩き、鉄道管理局で設備や乗務員運用  
に関する仕事を一応やった入社約10年目に、大阪から国  
鉄本社に行くことになった。その本社では職員局職員課  
というところで、定員・職制関係の仕事——裏返せばノ  
ルマに関わる仕事をするようになり、丁度蒸気から電気  
ディーゼルの時代へ変る時であり「EL・DLの助士廃  
止問題」としてストライキが連続し、世間にご迷惑をお  
かけした事案処理、或は近代鉄道のあるべき姿として、  
東海道新幹線を5000人の人員でスタートさせる起案に関  
わり、これらの労使交渉を主として担当するなど、専門  
とする途の方向が変わって行く結果となった。その後は、  
支社や管理局の経理や総務の部長、鉄道学園長、2箇所  
の管理局長を経て新幹線総局長と運よく階段を登り、現  
在はいわゆる第2の勤めとして、昭和57年から駅ビル創  
設に参加し、そのビルの代表者として225店舗、年商約  
270億円のショッピングセンターのデベロッパー業をや  
っているが、つい先日工学部関東支部同窓会が当ビル7  
階ホールで開催され、宿題を果たした思いをしている。

長い間に、良き友人、上司、同僚を得たことが何よりの  
好運であつたと感謝をしつつ、成り行きまかせの現役  
生活の終着点が見えて来た感じを持つ昨今である。

（機械・昭和20年卒・北千住ターミナルビル棟代表取締役）

39年目の教科書

井口 悌三

昭和63年8月9日からの大阪市立工研での日中ラジカ  
ル重合シンポジウムに、中国から馮先生はじめ諸先生方  
が来日されました。主催者の井本稔名誉教授を囲んで直  
接のご関係者や門下生が集まり小宴が催されました。

その際に、井本先生が東大教養学部の岩本教授と共著  
で、昭和63年3月に出版された「化学—その現代的理解」  
という大学の一般教養課程向け化学教科書を頂戴出来ま  
した。これを拝見しますと、丁度39年前、昭和24年5月まで  
周囲が焼跡の芦原橋の元小学校校舎、秋からは扇町の同  
じく元小学校の改築校舎での教養の授業を思い出します。  
教養1年の化学のご担当は無機化学の中塚教授、物理化  
学の小泉教授、分析化学の黒谷教授といった不出来な学  
生には勿体ない様な大先生方に教えていただきました。  
当時は大学の教科書といったものはなく、先生の講義や  
演習が主体で、参考書として、水島、鮫島先生の著書が  
上げられたかと思えます。勿論、新本などはなく勉強熱  
心な奇特な学生が梅新や上六、戎橋などの古本屋で探し  
てやっと入手出来る貴重品でした。

今回拝見したこの一般教養向けの化学の教科書には、  
原子や原子の結合、固体、気体、水溶液と酸・塩基、熱  
力学、反応の速さと化学平衡といった物理化学、無機化  
学、分析化学的分野と有機化合物、合成高分子、生体高  
分子、生体反応など有機化学、高分子化学、生化学的分  
野が一冊に包含されています。

その昔の化学の本に較べ、盛り沢山の内容とそのレベ  
ルの高さに驚いた次第です。例えば、教科書の最初から  
量子化学の s, p, d や sp<sup>3</sup> 軌道、結合のイオン性とい  
った、昔の専門課程で教えられたことが記載されていま  
す。ご存知の周期律表についてもメンデレーエフの原理  
に続いて、モーゼリーの法則、電子配置の構成原理にも  
とづく説明です。遷移元素についても錯体の異性体 cis,  
trans 以外にも fac, mer の異性体といった初めてお目  
にかかるものもあります。

更に生体高分子や生体内反応では酵素や核酸、DNA、  
RNA など2重らせんの分子構造、光合成の明反応と暗  
反応など、化学の進歩で学生さんや若い人の学力や知識  
レベルはたいしたものだと感心の度を一層深めた次第で  
す。しかし、知識の量が増えたからと云って頭脳が良いと  
か、思考力がついたとは云えないと思います。基礎知識  
をもとに、それに創造力、応用力を加え、自分の考えと  
責任において、決断し、プランを立て実行出来る人であ  
ってほしいと思います。

井本先生の名著「有機電子論」以降、試験がないので  
読んだことのない先生の教科書を拝見し、先生の若さと  
ご活躍分野の広さに改めて感銘いたしました。

（応化・昭和28年卒・松下電工(株)）



## 大阪に戻って考えたこと

西山 宏治



大学を卒業してからいつの間にか12年が過ぎました。就職と同時に上京し、東京で仕事をしてきましたが、昨年の8月に京都事務所へ転勤となり、念願の関西に帰ってきました。久しぶりに大阪の町や杉本町の辺りを歩いてみると、学生の頃に通った喫茶店や本屋が同じところに昔と変わらぬたたずまいであり、人情も変わらず、非常に懐かしい思いがしました。東京に較べて時間がゆっくり流れている感じがして、いい知れぬ安らぎを覚えます。永年暮らした東京は一昨年からの異常な地価の高騰でその町の構造・様相を急速に変えています。その地域・地区に根差した文化及び伝統が住む人を失うことによって見る間に破壊されていきます。建築は残すことよりも壊すほうが経済的とされ、その原理が最優先されることにより建築の文化的創造性そのものの崩壊につながっています。関西地区でもその余波を受けて、最近一部の地区で地価高騰の動きが出ていますが、流れに流されることなく、じっくり腰の座った、地域に即した開発を進めて欲しいと思います。

関西に戻ってきて一年、現在花博のメイン催事会場の設計監理に携わっています。「国際花と緑の博覧会」は大阪市東郊の鶴見緑地で昭和65年4月から9月末までの6ヶ月間開催されます。大阪では昭和45年の万博以来の国際博覧会となります。会場は山のエリア、野原のエリア、街のエリアの3つのゾーンに分けられ、それぞれ自然と人間の共生のあり方を問う場となります。メイン催事会場は街のエリアの中央、幹線動線としてのウォータープロムナードの屈曲点に位置し、文明と自然の出会いの場として花博での催事の中核施設となります。最大4000人収容の当催事会場は歴史性と未来性を持つとともに世界性をも合せ持った形態とし、人間と自然との係わりを表現しています。自然と人間、歴史性と未来性といったこの博覧会の目標こそ、急激な時代の流れに対する今日的なテーマのひとつのような気がします。この博覧会の試みがこれからの関西地区の発展の一助になればと思います。微力ながら私も「わが大阪」のためこれからも努力していきたいと思えます。

(建築・昭和51年卒・㈱環境建築研究所)

## 最近思うこと

大西 耕司



昔、先輩から「業務と仕事はちがう！」と言われたことがある。今だに正解はよく分らないが、やらされているのが業務で、やっているのが仕事という受動と主動の違いと解釈している。

人間社会の中で生活して行くうえでこれらは必ずあるもので、一概に善悪は判断できないと思うが受動的な業務はあまりおもしろくないものである。

主動的に行ないたいと思ってもなかなかできるものではないが、誠意を持ってあたればほとんどのものは次第に愛着を感じ、仕事としてとらえられるということが最近やっとわかってきた。もちろん、誠意というのは言葉では簡単に言えるがなかなか難しい。愛着のない仕事はおざなりになりがちで、不誠意を相手に感じさせてしまう。

鶏と卵ではないが、常に誠意と愛着のバランスをとりながら、楽しく仕事がしたいと考えている。

(土木・昭和50年卒・清水建設㈱)

## 私の生活観？

山本 智



私は、現在大阪市下水道局で大阪市の市制100周年記念事業の1つであるなにわ大放水路の設計を担当している。

大学院修了後、大阪市に就職して4年目であるが、早くも異動を1度経験し、また大阪市の中でも

大規模な工事の設計を担当することができたことは、ラッキーであると思っている。が、その反面、少ない人員で制限の多い仕事をしているためか、仕事のみならず、生活そのものにも精神的な余裕がなくなっている。

どんな仕事をする場合でも、せっぱつまった状態で仕事をするよりは、余裕をもって仕事をする方がいい仕事ができ、また得るものも多いのではないかと最近感じるようになってきた。しかし、これからは、1人当りの仕事量は増える傾向にあるために、プライベートの面をより充実させて精神的ゆとりをもって仕事をしていくことがとくに大切になっていくと思う。

(土木・昭和58年卒・大阪市下水道局建設部管渠課)

特色ある学校づくり



兩宮 伸

今、高校の教師をしています。大阪の府立高校というのは、1つの学区に10校ぐらいあって、子供がどこの学校へ行くかは、ほとんど中学の時の成績だけによります。

私の勤務するY高校は、6年前に学区内底辺校として開校しました。「ここしか入れなかった」という生徒が集まって来ます。毎日が『荒れ』との闘い。学校そのものが成り立つかどうかの瀬戸際でした。

で、1期生の卒業式。答辞：「3年間、辞めた教師はいなかった。俺達が卒業して何年かたって、Y高が勉強できる子ばかり、できない子ばかりの学校に、もしなっていたら悲しい。俺達が先生達と格闘しながらつづけてきたY高のめざすのは、そんな普通の学校じゃなく、人間を人間として大切に、またそういう子を育てる学校のはずだ。」

それが2年前。このごろはどんなことをしているかというと、例えば入学式では、上級生が新入生に、「名前がわかるとおり、ぼくは朝鮮人だ。君達の中にも同胞が32人いるはずだ。Y高では、朝鮮人が自分を隠さなくてもいいクラス、学校づくりをしている。君達もいっしょに本名で頑張らないか?」と呼びかける。クラスでは、もし日本人の自分が友人から「実は私朝鮮人やねん。」と打ち明けられた時、「そんな関係ない。同じ人間やん。」でいいのだろうか?と考えたり、そもそも、なぜ日本にこんなにくさんの韓国・朝鮮人が住んでいるのか勉強したり、また、そんな勉強をクラスでしようという時に「俺は差別しないし関係ない。」という顔の子に、隠している子が自分は朝鮮人だと言い出せるだろうか?と別な生徒がその子に問いかけたい……。

市大と同じように、部落研・朝文研があって、校内の行事、上の様なホーム・ルームに登場します。

来た時にはY高に、怖い、低学力のイメージを持っていやがっていた子も「自分より弱い者に強く出るやつは、強い者の前でへこへこせんとあかん。もっと堂々とした生き方がある。」それを学んだということで、母校に誇り、自信をもって卒業して行くようです。

(応物・昭和56年卒・府立八尾北高校)

工学部関東支部同窓会(第4回)短信

橋本 雅之

工学部卒業生の関東在職の機会が増え、年々盛大な支部同窓会を持ち得ることに感謝しております。グローバルの時代に西や東といった狭い思考は御遠慮願うとしても、母校の発展を祈り、恩師、同窓との交宣の中に、自己啓発とそれぞれの人生の目標に沿った機会の拡大が期待出来るのが大変な魅力であり、関東在職諸士の活躍が続いております。

恩師、ユニークな先輩社長、俳優などの講演会、6学科の活躍度競争、個人企業提供の賞品抽選会。強い個を求めた自己PR会、変化を求めて毎年変える安くて立派な会場の提供(先輩社長の会社など)……種々のイベントに特徴を求め懸命の盛り上げに努力中。特に前工学部長、安藤先生は4回連続での皆勤賞、ハッパをかけていただいております、又片井振武氏(機22年卒)を中心の事務局の大変な苦勞にも負う所大であります。平均100人の参加、絶対数では大阪本部に敗けますが参加率では上との自慢の声もあります。

「一人一人が主役、受身の期待ではなく、魅力あるものにする積極的態度での参加」を合言葉に運用が続いております。大阪本部の一層の御支援を期待しております。

「友人に語らせることも、聞くこともなく、背を向けて、自分の用事ばかりにかまけている人は友ではない」との名言を添えて。(電気・昭和36年卒・楠日立製作所)

評議員の移動

今期の新評議員(昭和62・63年卒)および交代者は以下の通りです。クラスメートの各位はよろしくご協力下さるようお願い致します。

学 科	62年卒	63年卒	交 代
機 械 工 学	二宮 隆志 東谷比呂志	塩瀬 淳一 南 勝	
電 気 工 学	尼崎 淳史	安田 力 山本 直人	塩山 正治 (23年卒)
応 用 化 学	朝比奈 稔 下条 芳敬	小畑 敦彦 福田 和幸	
建 築 学	片山 慶教 横関 真紀	大西 宏治 高井 晶子	
土 木 工 学	浅香 貴俊 山本竜太郎	土生川真二 藤田 孝	岡 正一 亀井 務 (23年卒)
応 用 物 理	加藤 芳則 本多 晃	植田 康生 寺井 由佳	中尾 義彰 (33年卒)

# 事務局年報

( '86・12~'88・11 )

'87年1月…第7期第5回理事会にて、第5回評議員会議案書その他を検討(23日)。

2月…工学部創立40周年記念事業委員会および後援会から、工学部学術情報交流センター(3月末開所)の日常的管理の依頼を拝受(14日)。大阪市立大学文化交流センターにて第5回評議員会を開催し、以下の事項を承認。同時に懇親会を併催(21日)。

## (1) 第7期('85・1~'86・12)収支決算報告

### (イ) 経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	7,030,000	評議員会(第4回)	120,840
預金利息	898,227	会報(2回分)	1,763,230
その他	61,000	事務局費	2,313,463
借入金	450,000	大学行事協賛費	82,000
		記念事業協力費	254,300
		特別基金積立金	4,000,000
		次期繰越金	△94,606
合計	8,439,227	合計	8,439,227

### (ロ) 貸借対照表('86年12月末日現在)

借 方		貸 方	
手許在高	0	第7期剰余金	6,847,732
振替口座	32,854	借入金	450,000
預金(元利)	31,359,330	特別基金(元利)	24,094,452
合計	31,392,184	合計	31,392,184

## (2) 第8期理事会役員改選

会 長 足立 幸一(建29)

副会長 植木 正富(土24)

理 事 東田 和郎(機20) 大月 正雄(機24)

人見 宗男(機31) 南斎 征夫(機39)

東 恒雄(機41)

大給昭二郎(電23) 中島 弘(電25)

布施 規夫(電28) 細川 省一(電33)

南 繁行(電45)

井口 悌三(化28) 大橋 邦夫(化32)

玉恒 誠三(化39) 大嶋 寛(化49)

坂内 幾男(建24) 郁築 周(建29)

多胡 進(建34) 赤崎 弘平(建45)

井上 保(土26) 中井 博(土34)

小林 治俊(土45) 日野 泰雄(土50)

北田 忠義(物36) 田守 芳勝(物38)

石黒 英治(物40) 茶谷 修治(物50)

監 事 保坂 博通(物34)

(註) 但電23大給昭二郎は塩山正治と途中交代

## (3) 第8期事業計画

(イ) 第6号名簿('87年)、第7号会報('88年)の発行。

(ロ) 特別基金の積立継続。

(ハ) 事務局の整備(工学部学術情報交流センター内に設置、開局時間の拡張とパート事務局員の複数化等)。

## (4) 会則の変更・訂正

会則第4条に「また理事会の承認を得て支部を置くことができる」を、第6章として正会員、準会員、特別会員の慶弔に関する条項を追加、**支部設置規則**(P7参照)を新設。

## (5) 第8期経常費予算(万円)

収 入		支 出	
終身会費(2年分)	680	評議員会	17
利息(2年分)	22	第6号名簿	617
雑収入(2年分)	6	第7号会報	100
第6号名簿	400	事務局費(2年分)	351
全上広告	100	大学行事協力費(2年分)	60
		借入返済金	45
		次期繰越金	18
合計	1,208	合計	1,208

3月…昭和61年度工学部送別式、祝賀鏡割りに会長副会長、理事有志出席(24日)。昭和62年度学部・大学院合格者に会則・入会案内を配布(20日)。工学部創立40周年記念の工学部学術情報交流センター開所式に植木副会長他理事10名出席(25日)。当会事務局業務をセンター事務室にて開始。市大広報(年4回発行予定)の創刊号、第2号を学外の理事、評議員へ郵送(30日)。

4月…事務局用の共用電話の設置完了(6日)。

5月…第6号名簿編集委員会にて方針決定(21日)。

7月…市大広報第3号を前号同様に送付(20日)。

11月…市大創立107周年記念音楽祭に協賛(15日)。

12月…市大広報第4号を学外理事・評議員へ発送(4日)。名簿第6号の予約分郵送を開始(10日)。

'88年3月…昭和62年度工学部送別式および祝賀鏡割りに足立会長、植木副会長他理事有志が出席(23日)。昭和63年度の学部・大学院合格者へ会則・入会案内を配布し会費払込みを要請(18日)。大阪市立大学工学部同窓会関東支部の申請を受理(23日)。次期会長候補(応用物理学科)の推せんを依頼(26日)。

4月…昭和63年度新入生の会費を集金(4日)。市大広報第5号を学外理事・評議員へ陸送(19日)。

6月…土木工学科23年卒の評議員の交代(岡正一氏および亀井務氏へ)を受理(30日)。

8月…会報第7号の編集作業を開始(31日)。

10月…次期会長候補の人選のための事務局としての折渉を開始(6日)。

11月…第8期第1回理事会で期末日程を決定、各種の受理案件を検討・承認。

大阪市立大学工学部の電話番号〔06-605-(下記番号)〕(1988.10.1.現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
福田 武人 2660	堤 四郎 2676	平井 竹次 2693	川村 純夫 2706	園田 恵一郎 2722	村井 昭 2738
逢坂 勝彦 2661	鈴木 裕 2677	小槻 勉 2694	下鳥 正孝 2707	小林 治俊 2723	西村 仁 2739
野邑 奉弘 2664	南 繁行 2760	五百井正樹 *	木本 英爾 *	鬼頭 宏明 *	中山 正昭 *
西村 伸也 *	黒田 輝 2677	澤井圭二郎 *	木内 龍彦 *	上林 厚志 *	曾我部 伸 2740
東 恒雄 2666	志水 英二 2678	太垣和一郎 2695	日置興一郎 2708	高田 直俊 2724	森 雄造 2741
布部 誠 2665	重田 和夫 2679	幸塚 正児 2696	坂 壽二 2709	望月 秋利 2726	美馬 宏司 2742
上田 祐男 2667	松下 賢二 2761	玉垣 誠三 *	那谷晴一郎 *	東田 淳 2725	藤井 康夫 *
南斎 征夫 2668	高橋 秀也 2679	荻野 健治 *	村上 益美 *	大島 昭彦 *	大倉 熙 2743
深井 完祐 *	安藤 慶一 2680	大津 隆行 2697	成瀬 哲生 2710	本多 淳裕 2727	笹沼 道雄 2744
吉岡 真弥 2767	青笹 正夫 2681	山田文一郎 2698	太田 洋一 2711	山田 優 2728	石黒 英治 *
玉村謙太郎 2669	草開 稔 *	圓藤紀代司 *	新居 洋子 *	貫上 佳則 *	人見 宗男 2745
上神謙次郎 2662	前川 義治 2763	松本 章一 *	大倉 良司 *	真嶋 光保 2729	北田 忠義 *
森元 時夫 2670	山下 一美 2682	原納 淑郎 2699	多胡 進 2712	西村 昂 2730	串部 宏之 *
若林三記夫 *	細川 省一 2683	矢野 元威 2700	杉山 茂一 2713	岡村 治子 2731	横田万里夫 2747
守田 栄之 2671	岡本 次郎 2684	大嶋 寛 *	中野 明 *	日野 泰雄 *	谷本 脩 2748
渡辺 紀彦 2672	浜 裕光 *	小郷 良明 2701	福田 晴慶 2714	小田 一紀 2732	鶴飼 正二 *
秋山 貞夫 *	中島 重義 2683	木下 雅悦 2702	三輪 雅久 2715	角野 昇八 2733	
瀧山 武 *	藤井 知生 2685	仲矢 忠雄 2703	濱田 学昭 2716	重松 孝昌 *	
中山 守 2673	渡辺 博己 2686	国枝 紀夫 *	赤埜 弘平 *	中井 博 2734	
	森下 昂 *	山内 清 *	斎藤 和夫 2717	北田 俊行 2765	
	建部 涉 2687	三浦 洋三 *	田中 康夫 2718	酒造 敏廣 2735	
	奥本 隆昭 2688		三輪 嘉男 2719	明橋 克良 *	
	藤原直賀人 2689				
	北村 泰彦 *				
					<b>事務室等</b>
					教務係 2653
					庶務係 2651
					図書分室 2657
					守衛室 2096

評議員会および懇親会のご案内

第6回評議員会および懇親会を、来年2月4日(土)、ホテルコーホ(道頓堀御堂筋西入ル)で開催いたします。評議員各位は万障お繰り合わせの上是非ご出席下さるようお願い致します(詳細は後日連絡の予定)。  
また、懇親会は、同窓生の親睦を促進する場として併催するもので、一人でも多く同窓生がご参集下さることを期待しております。同級生をお誘い合わせの上奮ってご出席下さい。お問い合わせおよびご出席の予約は、'89年1月20日までに当会事務局またはクラスの評議員の方にご連絡下さい。

◎ ご住所・ご勤務先の変更連絡を事務局へ!!

◎ 終身会費の未納の方、早急にお払い込み下さい!!

納入の確認および振替用紙の請求は

☎ 06-605-2789へ

編集後記

昨年は会員名簿の発行年で、第6号名簿を予約会員に配布いたしました。今年からの3年間はまた会報を全会員に配布する予定で、本年はこの第7号会報をお送りした次第です。

本号の特別寄稿は、30余年間本学での研究と教育にご活躍になり昨春に定年退職をお迎えになった兵働・森島両先生にお願い致しました。前号までの評議員による会員通信は一応一順いたしましたし、本号では昭和62、63年の卒業生・新入生名簿や事務局年報を掲載するために、各科からの推せんいただいた1~2名の会員にお願いしました。また、昨年3月に開所いたしました創立40周年記念事業募金による工学部学術情報交流センターにつきましても十分な紙面を取り得ませんでした。

なお、今まで会報を未入手の同窓生が分りましたら、当会事務局へご一報下さい。

最後に、会員各位の一層のご活躍をお祈り致します。

編集委員

南斎征夫(機39) 細川省一(電33) 玉垣誠三(化39)

赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 北田忠義(物36)

人見宗男(機31)